

令和 5 年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、天気は数日の周期で変化しました。低気圧や前線の通過に伴い本州付近では 6 日から 8 日頃にかけて雨が降り、大雨となった所もあったため、降水量は東・西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多くなりました。特に、東日本日本海側では降水量は平年比 338%となり、1946 年の統計開始以降、5 月上旬として 1 位の多雨となりました。また、北日本日本海側と北・東日本太平洋側で多くなりました。日照時間は、期間のはじめと終わりに高気圧に覆われ晴れたため、東日本太平洋側でかなり多く、北・東・西日本日本海側と北・西日本太平洋側で多くなりました。沖縄・奄美では、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、低気圧や前線の影響を受けにくく降水量は少なくなりました。日本付近は期間の前半は平年を上回る日がありましたが、期間の後半に冷涼な空気に覆われ、平年を下回る日があり、平均気温は、西日本で低くなりました。

中旬は、本州付近では天気は数日の周期で変化しました。東日本と西日本を中心に上空の気圧の谷や、低気圧や前線の影響で降水があったものの、北・東日本日本海側を中心に高気圧に覆われ晴れた日が多く、降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり少なく、東日本日本海側で少なくなりました。また、日照時間は北・東日本日本海側で多くなりました。気温は、期間の前半に冷涼な空気に覆われて平年を下回る日がありましたが、期間の後半は晴れて気温が平年を大きく上回る日があり、平均気温は北日本で高くなりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われ晴れた日もありましたが、湿った空気が流入し曇りや雨の日が多く、沖縄地方と奄美地方で 18 日ごろに梅雨入りしたとみられますが、低気圧や前線の影響は小さく降水量は少なくなりました。気温は期間前半に冷涼な空気に覆われ、平均気温は低くなりました。

下旬は、北日本では、天気は数日の周期で変化しましたが、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側で少なくなりました。東日本と西日本では、期間の中頃にかけて天気は数日の周期で変化しましたが、期間の終わりは前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなり、九州北部地方、四国地方、中国地方、近畿地方、東海地方では 29 日ごろに、九州南部では 30 日ごろに梅雨入りしたとみられます。また、日照時間は東・西日本日本海側と東日本太平洋側で少なくなりました。29 日頃は日本海側を中心に大雨となった所があり、降水量は東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側で多くなりました。沖縄・奄美では、湿った空気の影響で曇りの日が多くなりましたが、高気圧に覆われ晴れた日があり、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、降水量は少なくなりました。気温は、全国的に期間の中頃に冷涼な空気の影響で平年を下回る日があったものの、暖かい空気に覆われやすかったため、平均気温は北日本、西日本と沖縄・奄美で高くなりました。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3~7 日目平均)は、例年値(注)よりも 6 ポイント高い 76%でした。地方別の適中率では、すべての地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2~7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.3℃小さい 2.4℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2~7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.1℃小さい 1.8℃で、北海道、東海、北陸、近畿、九州南部、沖縄の各地方で例

年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7月の中旬～下旬に、九州地方から東北地方にかけて梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農産物の生育に影響が及ぶことがあります。2週間気温予報や早期天候情報を活用するほか、週間予報で曇りや雨の日が予想され、平年よりも気温の低い日が続く場合には、早めの対策を取るなどしてください。